



奈良中央信用金庫の皆さんのご尽力により、旧魚町本店をインキュベーション拠点「TAWARAMOTO ちゅうしん ReBORN STUDIO」として再生

かせぐ地域の 実現に向けて

高江町長から一言

田原本の持続的な発展のためには「かせぐ地域」のより一層の実現が欠かせません。地域で生まれる価値が増えるほど、住民福祉の基盤が確かなものとなります。昨年度は皆さんの御尽力により、ふるさと納税が前年度比約 1.5 倍の約 9500 万円となり、また、道の駅の売上も過去最高の 4 億円を突破しました。

引き続き各種産業の振興を推進するほか、今年度からは新たに「たわらもと ReBORN プロジェクト」と題してスタートアップ誘致・産業クラスター形成に挑んでいます。詳細は 5 ページのとおりですが、国が掲げる総合経済対策にも合致する時流に乗った先駆的な取組です。田原本から世界に羽ばたく産業を生み出す好循環を育てていきます。

町内経済の変化

田原本町は古くから交通の要所として発展し、舟運の拠点であった今里浜などを中心に賑わいをみせました。鉄道網の整備、車社会の到来、国道 24 号の発展により、町は時代ごとの交通基盤に支えられ成長してきました。

しかし、大型店の進出や京奈和自動車道の開通により人の流れは変化してきました。今こそ地域の資源を

活かし、より一層「かせぐ地域」へと転換する挑戦が求められています。

かせぐ地域の実現に向けて

今月号では、かせぐ地域のより一層の実現に向けての、先駆的な取組（たわらもと ReBORN プロジェクト）や現在町で行っている各種事業について紹介します。

図 かせぐ地域課 ☎ 34・2080

01

「バイオものづくり」をテーマとしてスタートアップを誘致、産業クラスター形成に挑む！ たわらもと ReBORN プロジェクト

背景・現状

これまで田原本町では京奈和自動車道沿道の十六面・西竹田の地区計画区域を中心に企業誘致に取り組み、一定の成果を得ました。

令和7年4月に施行された農業振興地域の整備に関する法律の改正により、大規模な土地利用を伴う企業誘致が厳しくなる状況に直面しています。

たわらもと ReBORN プロジェクトとは

「バイオものづくり」をテーマとして、町の地域産業・資源との親和性の高い分野のスタートアップ（先進的な技術などを強みに新しいビジネスを創り出す企業）などを誘致し、地域産業との掛け算により新産業を産みだすことを目的としています。町内に設置するインキュベーション拠点をハブとして「スタートアップの誘致・定着」「地域事業者のオープンイノベーション」に取り組めます。今後10年をかけ、スタートアップと地域産業の掛け算で新たな産業を創出し「かせぐ地域」の実現を目指します。



公式サイト

官民連携ファンド

令和7年8月1日、全国的にも先駆的な官民連携ファンドとなるスタートアップへの投資を目的とした「たわらもと ReBORN プロジェクト1号投資事業有限責任組合」を民間出資をベースとして2億1000万円の規模で立ち上げました。今後、有力なスタートアップへ投資が行われます。

アクセラレータープログラム

令和7年10月に令和7年度の参加スタートアップの募集を開始しました。審査の結果5者を選定しました（下記参照）。今後、採択した5者には、インキュベーション拠点での活動や企業の事業開発などへの伴走支援を行い、スタートアップの成長を促します。

スタートアップの誘致・定着

- スタートアップへのメンタリング・ハンズオンでの事業開発支援
- PoC（概念実証）の場所 / 協業先の連携
- たわらもと ReBORN プロジェクト1号投資事業有限責任組合（官民連携ファンド）からの出資など

地域事業者のオープンイノベーション

- 地域事業者の事業開発の支援
- 近畿経済産業局 / 県庁 / 町役場の他部署 / 他市町との連携を推進

インキュベーション拠点

TAWARAMOTO ちゅうしん ReBORN STUDIO

奈良中央信用金庫からのご協力のもと、奈良中央信用金庫創業の地である旧魚町本店をインキュベーション拠点へと再生しました。

町の中心である駅前から、町全体を巻き込んだ「地域イノベーションハブ」の創生を目指して、地域から持続的に新産業が生まれる好循環の実現に挑戦します。



オープニングセレモニーの様子

アクセラレータープログラム事業者（研究者3者・スタートアップ2社）

奈良先端科学技術大学院大学・微生物インタラクション研究室 渡辺 大輔准教授

地域の伝統的発酵食品を対象に、微生物叢モニタリングと工程デザインを組み合わせた「発酵デザインサービス」の有効性を検証。

奈良女子大学 本田 裕樹准教授

保有する水素製造に関する技術の社会実装を目指して、有望市場の見極めに向けた検討・検証を推進し、ユーザーのニーズに合わせたスケールアップや装置設計の計画具体化を目指す。

奈良女子大学 三藤 清香特任助教

ウミウシの飼育容器や海外への長距離輸送に耐える輸送容器や、保定器具等の周辺機器等の開発・特許申請及び、小型系でのウミウシ飼育の安定化に向けた飼育条件の検証。

(株) ANSeeN

X線検出器の設計開発・製造販売が主力事業。バイオマーカーと連携した画像診断技術を活用した、病巣の早期発見や確定診断の可能性を検証。

(株) LEP

植物を活用した、次世代発光源 LEP®の開発、製品の製造・販売。
観光事業への本格的な進出に向け、LEP®を活用した町内の既存観光資源の高付加価値化の実現可能性を検証。

02

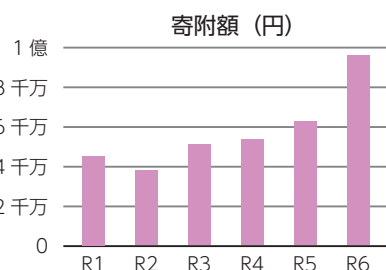
ふるさと納税

安心して応援いただける仕組みづくり

寄附額は上昇傾向

皆様のご支援により寄附額は堅調に上昇傾向です。いただいた寄附は、未来を担う子ども・福祉・防災・地

域活性化など、町のさまざまな施策に活用され、暮らしの質の向上につながっています。



多彩な返礼品を拡充中

イチゴやお米など、田原本ならではの農産物は根強い人気。また、リュックサックや

トレッキングポール、晴雨兼用傘などの実用品も多くの支持を集めています。町内事業者の品質と丁寧なもののづくりが評価され、リピーターも増加しています。

今後は、より多くの魅力をお届けできるよう、返礼品のラインアップを一段と強化。新規の返礼品提供事業者の参画を積極的に進めるとともに、既存事業者とは新たな取組を展開していきます。皆さんが安心して応援いただける仕組みづくりを進めますので、引き続きのご支援をよろしくお願いいたします。



Interview

ふるさと納税に商品を提供いただいている町内企業にお話を伺いました

もともと五條市で事業を行っていたのですが、ご縁があり田原本町で新しく会社を立ち上げました。スキー・スノーブーツの製造・販売を主力としており、父の言葉である「価値ある創造」を旨に、良質な製品を安価で販売することを心掛けています。

ふるさと納税への商品提供の話を受けた時は、上手くいくのか正直なところ半信半疑でした。慣れないことも多く手間取りましたが、実際にスタートしてみると売り上げも増加し、思っていた以上の結果が返ってきました。送料などの経費も掛からず、少ない手間で大きなリターンとなっています。

ふるさと納税サイトでは、他の EC サイトよりも商品が見られていることが多く、商品の PR の機会にもなっていると考えています。私たちの製造しているもののように、他社の取り扱いが少ない製品や特殊な製品を販売している企業は特に、ふるさと納税参入のメリットがあるのではないかと感じます。



ジェイクリエイト(株)
代表取締役

吉岡 潤三 さん

ジェイクリエイト(株)で製造しているスキーブーツ

03

農業

新規就農者への各種支援

新規就農者支援

農業者の減少や高齢化による担い手不足に対応し、農業生産の基盤を維持するため、次世代を担う新規就農者の経営を支援し定着化に取り組んでいます。

農地の確保

中間管理機構と連携し、農地所有者とのマッチングを支援します。

新規就農者に対する助成金（一例）

●経営開始資金

経営開始時の早期の経営確立や経営発展のための資金を交付（150万円／年、最長3年）

●経営発展支援事業

就農後の経営発展のための機械・施設などの導入などに係る資金を交付（最大750万円）

04

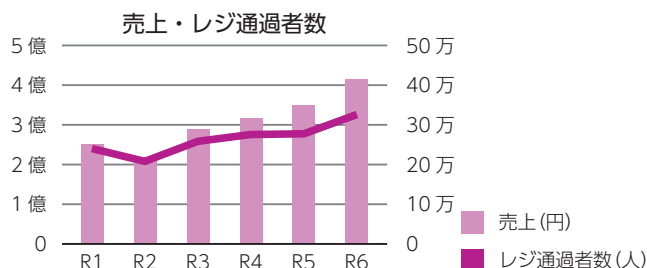
道の駅 レスティ唐古・鍵

田原本町の元気を体感できる拠点

売上は上昇傾向

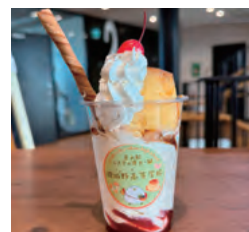
町のにぎわいを牽引する交流・発信拠点として、オープン以来、着実に存在感を高めています。年間を通じて季節のフェア・マルシェなどを展開しています。来訪動機の多様化とリピーターの増加につながり、売上は堅調な上昇傾向を維持しています。

運営にあたっては、地域経済の循環を重視。地元雇用の創出に力を入れ、スタッフ採用や人材育成を通じて働く場を確保するとともに、地場野菜・特産品の積極的な活用で農業・商工の連携を後押ししています。



地域・学校・事業者が一体となった「おいしい循環」

カフェでは、地元・奈良県立磯城野高校と産学連携を進め、若い感性をいかしたメニューづくりを共同で実施。栄養や食文化の学びを生かしながら、世代を超えて愛される商品を生み出しています。



磯城野高校コラボメニュー「濃厚たまごのプリンパフェ」

また、ベーカリーでは地元産野菜や旬の素材を取り入れた多彩なラインが人気。地元農家さんの魅力発信とフードロス低減にも寄与し、地域と学校、事業者が一体となった「おいしい循環」を形にしています。

今後も、イベントの拡充や学び・健康・観光を結ぶ企画を通して、町の中心部のにぎわい創出と交流人口の拡大をさらに加速させます。暮らしに身近で、訪れるたびに新しい発見がある「道の駅レスティ唐古・鍵」に、ぜひ足をお運びください。

05

企業誘致

都市計画を活用し企業が立地しやすい環境を整える

京奈和自動車道沿道での新たな土地活用

京奈和自動車道沿道は交通利便性が高く、産業用地としての需要が高いエリアです。

しかし、この地域の多くは原則として建物の建築などが認められていません。そこで、地区ごとにその制限を緩和・制限する地区計画制度により土地利用を進めています。これにより、厳しい規制の中でも例外的に立地が可能となり、農地環境と調和した秩序ある企業誘致が実現します。

先行する十六面・西竹田地区

この仕組みを先行的に進めている十六面・西竹田地区では、地域との協議を経て順次計画を決定し、現在4地区まで区域を決定・拡大。物流機能などの集積が進み、固定資産税の増や雇用の創出といった「かせぐ地域」としての成果が着実に表れ始めています。

マスタープラン改定と将来への布石

まちづくりの面的な広がりを進めるため、令和6年4月改定の都市計画マスタープランで、京奈和道沿道から概ね500mの範囲を新たに「ものづくり」エリアと位置づけました。

これは、企業立地のニーズが高まった際に、スムーズに企業立地を進めるためのもので、将来にわたる安定した税収確保に向けた土台作りを行っています。

